

平成29年度第2回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成30年3月22日（木）
午前10時から午前11時10分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
 - (1) 出席構成員
天童市長 山本 信治 教育長 相澤 一彦
教育委員 井上 正信 教育委員 大貫 紀代子
教育委員 本田 孝之 教育委員 村山 晴香
 - (2) 説明のため出席した者の職氏名
教育次長 佐藤 雅 学校給食センター所長 萩生田 伸悟
学校教育課長 江川 久美子 生涯学習課長 武田 文敏
教育総務課課長補佐兼庶務係長 矢萩 茂
 - (3) 事務局職員の職氏名
総務部長 武田 淳 総務課長 森谷 倫祥
総務課課長補佐兼行政係長 佐藤 貴宏
総務課行政係主査 丸子 正彦
- 4 議事録署名員
教育長 相澤 一彦
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 協議・運営事項
 - ア 教育大綱に基づく平成30年度の教育方針について
 - イ その他
 - (4) 閉会

6 会議の内容

発言者	発言内容
佐藤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p>
山本市長	<p>3 協議・調整事項</p> <p>それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 教育大綱に基づく平成30年度の教育方針について</p>
山本市長	<p>「教育大綱に基づく平成30年度の教育方針について」説明を求めます。</p>
相澤教育長	<p>(教育大綱に基づく平成30年度の教育方針について、根本となる見方・考え方と現状(天童市の子どもたちや教育についての課題と成果)の確認及び天童の教育の3つの柱</p> <p>1 一人ひとりを大切にする教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して子供を産み育て、預け、相談できる体制の充実 ・生きる力を育てる教育(いじめや不登校等生徒指導)の充実 等 <p>2 学びに向かう力を育む教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に向けての指導力の向上 ・ICT、英語、道徳等を教えるための体制の整備及び指導力を高める研修の充実 等 <p>3 郷土を担う人づくりの教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土を知り、郷土との関わりを育む学校教育を行うた

<p>山本市長</p>	<p>めの開かれた教育課程の整備、充実 ・「天童市民科」（仮称）教科書の作成 等の説明)</p> <p>それでは、ただ今説明がありましたが、皆様の方から御意見・御質問がありましたらお願いします。</p>
<p>大貫委員</p>	<p>郷土を担う人づくりの教育のところですが、昨日のロードレースで市民歌と市民憲章を子どもたちに渡して、歌を歌って、市民憲章を読んでもらうときに、一人の高校生が「僕天童市民なんだけど分からない。」という子がいました。いつも何かのときに必ず歌っているのに、知らないのかなと思いました。この資料を読ませていただいて、せっかくの天童市の歌であり憲章であるので、子どもたちが歌えるようになったり、憲章の内容や天童市の成り立ちなどを子どもたちに教える機会があったらいいなと思ったので、ぜひお願いしたいと思います。</p>
<p>山本市長</p>	<p>市民歌、市民憲章というと子どもたちがざわざわしてきてね。おそらく「私分からない。」と言ってね。こっちの方で生徒たちに渡してはいたと思います。</p>
<p>大貫委員</p>	<p>私も天童に来て長くなりましたけれど、最初に公民館活動した時に、市民歌と市民憲章が一番最初に覚えてきたところがあります。すごくいいなと思いながら歌も歌いながら市民憲章を読んできたので、ぜひ子どもたちにどういうふうな形でこういう歌もできたというようなことを、少しの時間でもいいから子供たちに教えていただければと。</p>
<p>山本市長</p>	<p>それについてはどうですか。</p>
<p>相澤教育長</p>	<p>私も同感です。学校で何もなくて教えるとなると、教員は負担に感じます。ところが、教えるものがあるといいと思っています。もし、天童市民の教科書を作るとすれば、私のイメージですと、1ページ目に満開の桜の中で人間将棋の絵があり、市民歌と市民憲章があって、そこに天童市の縁みたいなものが少しあって、そのページを教えてくださいと。全</p>

山本市長	<p>学校ですぐしてくださいとなると負担になり、教育課程とどう絡むのかということもありますが、そういう材料を提示しながらお願いするということはできるのかなと思っているところです。</p> <p>そのほかありませんか。</p>
井上委員	<p>学力向上ということが叫ばれる中、地域の教育力が低くなっているのではないか。昔から比べると地域教育力はかなり低くなっていると思います。色々と学校からもらいますが、学校教育の重点項目の中に郷土の教育という文言すらないと思います。ぜひ進めてもらいたいと思います。生命には自分の生まれたところに戻っていきたいという帰巢本能がありますよね。でも、本能だけでなく、自分が生まれ育ったところでどれだけ学んだか、どれほど活動したかということも半分以上地域に戻る、自分の生まれたところに戻るという相関関係があるという研究もあり、正にその通りだと思っています。ただ、具体的には分からないのですが、学校現場の中で子供たちに郷土の学習の時間と場所を保証するように、ぜひ教育委員会からも訴えていただければと思います。それぞれの学校でもあると思いますが、地域とつながるための一つの教材として、そういう面でも開発していく必要があると思います。</p>
山本市長	<p>そのほかありませんか。</p>
本田委員	<p>今の話の中で、山形も何十年後には市町村が少なくなっていくのではと言われている中で、どうしたらという解決策もなかなかないのですが、私が考えるに、子どもたちも色々と職業を選びますよね。職業については学校でも色々勉強しておりますけれども、職業を選ぶということは、もちろん大事です。その職業に就きたくて勉強することは、目標としてあるのですが、地域ともっともっと接する機会がないと。今の子どもたちには、ふるさととか、郷土とかというのはもうほとんどないように感じます。そういうことを目覚めさせてもらえれば、職業を選ぶんだけれども、最終的にはだんだん大きくなってきて、「やっぱり自分は地域生活圏の方が大事だ</p>

	<p>な。」という思いが多くの人に出てくるのだと思います。職業だけで進んでいく方っていう特殊な方はおりますけれども、どこ行っても職業ができるのであれば、自分の生活圏はどこが一番いいのかなとある程度の年代になってくると考える時期があると思うんですよね。そのときにやっぱり天童に戻りたいって戻ってくる子どもたちをいっぱい知っておりますし、それは何なのかなという、学校のときにどんな生活をしたかということが大きいと思うのです。当然親の育て方もあると思いますが、私としては職業よりも地域を大事にしたいと思っております。そうでないと地域の企業といいますか、地域の産業がどんどんなくなってしまいますし、仕事をするために戻ってくるっていうことだと戻る場所もなくなってしまいますから、地域が好きで戻ってくるという帰巢本能を引き起こすために、社会の中で生活している企業の立場からしても重要なと思いますし、大賛成であります。</p>
山本市長	<p>そうですね。ほかにありませんか。</p>
村山委員	<p>話を聞いておまして、「天童市民科」はすごくいいなと思いました。子どもたちは難しい本だと読まないけれども、漫画にすると読んだりするので。「天のアートロード」というのがあります。せっかく芸工大とのつながりがあるので、そういった本を例えば漫画で描いてもらったりすると子どもたちも喜ぶと思いました。あと、美術館ともコラボできますし、ボランティアのスタンプみたいのものでも、各地を回ってスタンプ貯めるとモンテディオのチケットが当たるとなるとみんな喜んでやるのではないかと聞いていました。ぜひよろしくをお願いします。</p>
山本市長	<p>去年だったかな、企業の紹介を作りましたね。ああいうことを一つ一つ丁寧にやっていくことが大事なのではないかと。ある意味集大成みたいな形でこういう教科書があると教育現場も取り掛かりやすいし、教育現場だけでなく家庭に一冊あれば、親御さんまでこんなふうになっているのかと色々知ることができると思います。そういうことも含めていろいろアイデアが出てくると思うので、ぜひ教育委員会中心となってやってみたらどうかと思います。仕事の一つ増える</p>

相澤教育長	<p>かもしれません。</p> <p>仕事を増やしたくない私の思いで言っているので、何か上手い方法ないかなと思っているところです。</p>
山本市長	<p>親が商売している子どもたちは違うと思うのですが、例えばサラリーマン家庭に生まれて、天童でこういう仕事をしたいというときに、自分の意に合うような企業があって、なおかつ入れたとなればよいのですが、自分の意に合うような会社がないとなると、天童に対する思い、ふるさとに対する思いというものは変わってくると。そういう意味では地域活動していることによって、地域の人たちと一緒に活動したいというような一定の部分は期待できるのではないかと思います。その部分を手助けする一つの資料として、道具としてあれば、まちづくりとしては有効な手段ではないかと思います。</p>
相澤教育長	<p>協働のところについて色々と御意見いただいたことにうれしく思いつつ、この協働の教育についてどういうふうに考えているかということ、およそ3つの視点があるのではないかと思います。1つ目は、知るということ、知らないと縁だけの話になる。2つ目は、関わりを作る。実際公民館に行ってお年寄りと関わったり、ボランティアをしたりと。3つ目は、本田委員がおっしゃったように働く場としての郷土ということも大きな視点だと思っております。それを貫くのがつながるといふか、人はつながっていくのだという、土地とつながり、歴史とつながり、郷土とつながり。会社の中でこういう仕事をするんだぞっていうことだけでなく、なんでこういう仕事が必要なのか、どういう役に立って、あるいはその仕事の苦しさは何だとか、楽しさは何だとか、そこで地域のために頑張っているんだとか、そういうつながりが見えるものにできないかなと思ったところです。すると、通り過ぎた会社がこんなにも郷土のために頑張っているということが見えてくるということが大事な視点かなと思っており、奇しくも本田委員が指摘してくださったことが私もそうだなと思えます。</p>

山本市長	その他3つのことどれでも結構です。
井上委員	<p>天童の教育のアンケート取った中で、学校は楽しいというところが多いのはこれからやろうとしていることからすれば良いことですが、家庭学習の面でどれを見ても悪いような状況です。勉強時間もそれなりにあって楽しんでやっているのであれば一番よいのですが、学習時間も短いし実際学力も落ちている。その割に御家庭の方は学校行事への参加が高い、ということは単純に考えると、うちで何もしない、学校でちゃんとやってくればいいと、学校に様子見に来ているだけなのではないかというように感じてしまいます。</p>
山本市長	<p>「スマホ、テレビ、ゲームをいっぱいして、勉強しない。」。お父さんお母さんは学校に行くと、そういうふうには見えない、学校が悪いのではないかと先生方が言われているのではないのでしょうか。そういう傾向はあるのですか。</p>
相澤教育長	<p>正確なデータはありませんが、苦情が多いわけではありません。むしろこの子どもをもっと高めなければとか、こうしなければというのが弱いのではないかと。その一つの視点が、天童はものすごく便利なところでどこにでも進学できる。市内に2つの高校があり、他市の高校にも通いやすいものすごく便利なところなんです。だから天童の保護者は、そんな無理しないで、ここでどうだみたいなことになるわけです。だからこそ競争心というものがあまりない。イオンもあるし、天童がいい街だから、そんなに無理しなくてもいいという土壌が天童にはある様な気がします。</p>
江川学校教育課長	<p>教育長がおっしゃったように、高校進学のことなどは分かりやすい例なのかなと。非常に豊かで、子どもたちの自尊感情も高く、一人一人を大事にということをして長く続けてきておりますので、どんな子どもも教員が受入れをして、良いところを伸ばそうという基本的な姿勢で授業を進めております。その成果の一端として、安心して登校しており、学校は楽しいという子どもたちは評価してくれています。今ちょうど学校の評価のアンケートが集約される時期ですが、親御さんの評価も学校は楽しいと言ってきて、ありがとうという</p>

山本市長

評価が8～9割となっております。それは天童市の学校教育の成果の一つだと捉えて、こういうところは大事にしていこうと思っています。一方シビアな数字が出るところや進学の面を見ますと、良さと厳しさが若干弱いという課題が取り上げられます。確かに上位の将来進学を目指そうという確たる思いで頑張る子もいるのですが、ここは第1希望第2希望がダメとなると第3も第4も第5もと似た水準の学校が豊かにあり、交通の手段もあるので、子どもたちも親御さんも厳しかったらこっちという雰囲気はあります。いい面もあるし、厳しさ、授業の面での振り返りの弱さというのは環境的な要因があるかなというのは一つ。それは明らかだと言ってもいいかもしれません。もう一つは、教員に対してです。教員は全国の水準がここであったら、天童市の教育はこういうことだと、教員の中の意識改革や授業改善は具体的に研修を密というか計画的に運ばなければならないと考えております。

ほかにはありませんか。先ほど教育長はICT関連の予算についておっしゃっていましたが、教育関係では必ず予算は問題になります。どこの市町村でも、やろうとした場合は、この課題というのは突きつけられます。お金をあまり出せませんから。文科省辺りで用意してくれればいいのですが。そうしますと、結果責任というか、成果とか結果をキチンと市民の皆様を示していく必要があるんですね。しかし、教育ですから、短時間で成果が出るということにはならないんですね。その辺が逃げ道になると言えばなるんですけども。ただ少なくとも、一つの段階のステップを1年ごと踏んでいくくらいのが明確に分かるように。今年はこのものを入れたわけだから、全体的にはこのレベルまで押し上げるとか、数値的な具体的な目標のようなものがICT教育を取り入れたときには余計に必要になってくるのではないかなと思っています。今例えば先生のレベルを上げるというのは当然でありますけれども、先生のレベルは上がった、では子どもたちのレベルはどうなんだ、というこの辺の評価基準というか、そういうものを現場に届けていくということが大事なのではないかと思えます。ICT教育をやっている学校がありますが、子どもたちにとってはスマホとかゲーム機の延長線上にあるようなんですよね。興味のあるところだか

	<p>ら、今まで勉強しない子もそれによってやるという典型的な例なのではないかなと思います。ですから、いいことなんだけれども、学力の部分において、今までさっぱりやらなかった子が急にやるようにはならないということが出てくると思うんですね。我々とすれば、教育委員会、学校現場において、これを入れたからということで今年度は少なくともこれくらいまで全体的な底上げをするという、基準の作り方も様々難しい課題はあると思いますが、いわゆるICT教育のようなものを導入する場合にはそういうものを明確にしていかないと、説明責任を問われたときになかなか難しいのかなと。</p>
<p>本田委員</p>	<p>市長が今おっしゃったことについてですが、ICT教育、それに接する機会というということを数値化するというところに反対するわけではないんですけども、ALTにしてもICTにしても後で花開くためにやるんですね。これまで4人だったALTも8人に増えて、年中先生と対面する時間が増えました。昔我々が習った英語のように最初に文法から入って、使ってみたら誰もわからなかったというのではなくて、相対するということが必要なもので、すぐに成績上がるかという数字を求められると難しいのではないかと。いい数字出た時には公表してもよいのですが、公表しますと銘打ってやって、こういう成果が出たと、あんまり短期に求められても大変なのではと。</p>
<p>山本市長</p>	<p>あくまでも内部的な資料としてね。私も教育を数値化して、点数はもっとも明確な数値化ですけども、全体的なレベルを数値化というのは難しいと思う。ただ、少なくとも教育現場の目標値としてあってはよいのではないかと。</p>
<p>井上委員</p>	<p>タブレットICTについては、見ていると研究すること自体が導入の狙いのような感じがします。避けて通れないところなので、まず導入して、それから新しい使い方をするところからこれからやらなくてはいけないことだと。先生方の中にはものすごい知識を持っていらっしゃる方がおります。子どもたちに預けっぱなしでは何にもならない。先生たちも研究するための研修会とかをやって、その後に子どもに使わせて</p>

山本市長	<p>成果を収めるということが必要になってくるかなと思います。</p> <p>I C T教育については成果が確認されていない、検証結果が出ていないという中でずっと通り過ぎて行ったというところがあります。しかし、この時代ですから、検証結果を待つということより、天童市にとっては我々が検証結果を出そうという思いで私はいるのですが。この前一中に行ったとき、後ろに先生も来てたようですね。長けている先生のやり方を見に来ている先生いるのですね。正に今はそういう段階なのではないかなと。</p>
井上委員	<p>それとスマホのマイナス面ですね。弊害について、勉強の差し迫ったものとしては、一番簡単に成果が出やすいような感じがします。</p>
本田委員	<p>ここまで普及してしまうと、スマホの制限というものはもう難しいですね。既に学校でどうこうできるという段階ではない。指導はできるでしょうけれども。現状少なくしていくことをやろうとしてもその流れは・・・。それくらい実際のデータやら資料やら、これがなくて別な方法でやり直そうと思っても立ち行かないという状態になっております。子どもたちが学校で勉強したり生活するのには必要ないでしょうけれども、親の姿、社会の姿を見たら、子どもにだってあって当たり前のような気もするし、実際の実体験とどうやって折り合いをつけていくかという方向性を出すのが現実的なのかなと。ただスマホだけを取り上げて、使い方、時間はこれまでという決め方というのも難しいのかなと。考え方を少し変えていかなければならないなど。</p>
山本市長	<p>スマホの制限はあるのですか。</p>
江川学校教育課長	<p>スマホの制限はありません。正しく使いましょうということは周知しています。今週の月曜日にL I N E株式会社の担当者が来てくれて、市内の教員向けに研修会をしてくださいました。次の日に市内4校でも子ども向けにL I N Eの使い方の中でどういうところでトラブルが発生するかとか、制限</p>

	<p>をするという考え方でなくて、こういうことが有効な使い方 で、こういうことが誤解を生むんだよと演習を交えながら行 いました。P T Aの中でも9時以降は制限しましょう、自粛 しましょうと呼び掛けをしているようです。</p>
相澤教育長	<p>ほぼ全部あると思いますよ。</p>
森谷総務課長	<p>学校への持込みはいいのですか？</p>
相澤教育長	<p>ダメです。ただ、うちの子が医者に行かなくてはいいな い、連絡する必要があるなどの特例の場合は、学校で預かっ て下校時に返します。何回か預かったことがあります。教室 にはありません。</p>
山本市長	<p>小学校で持っている子もいるのですか？</p>
江川学校教育課 長	<p>数字がなくてすみませんが、高学年になると何割か持って いる子がいます。中学校になると8割以上。</p>
山本市長	<p>授業中音が鳴ったりすることはないのですか？</p>
相澤教育長	<p>0ではありません。</p>
大貫委員	<p>P T Aのお父さんお母さん方で話し合いをしていただいて、 学校には持っていかないという周知をしているということ ですよね。</p>
本田委員	<p>実行力はありますよね。</p>
山本市長	<p>ほかにありませんか。 皆さんからお話いただきましたけれども、天童市民科とい うことをテーマに最後の3番目のことについては期待してい るところもありますので、大変だと思いますけれども、時間 を掛けて30年度の課題として、できれば家庭にも欲しいと 言われるような誰にでも見やすいものを作っておけば、まち づくりにおいても道具にもなるのかなと思います。年度終わ りを迎えて、教育長から30年度の基本方針を話していただ</p>

	<p>きました。大変参考になりました。この会議については、今後も自由闊達な御意見が出るように努力してまいりますので、さらなる御意見をいただきたいと思います。今日は色々お話いただいて感謝申し上げます。私の役割は終わらせていただきます。</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉会</p>
--	---